

2023 年第 3 回 Japan Council 理事会議事録(案)

日 時：2023 年 12 月 15 日 (金)

場 所：機械振興会館 6 階 6-66、Zoom 併催

出席者:宮永 Chair、原崎 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasurer、小林 札幌支部 Secretary、山田 仙台支部 Chair、湯川 信越支部 Chair、佐田 東京支部 Vice Chair、植村 東京支部理事、Kawamoto 東京支部理事、佐藤 名古屋支部 Chair、梶川 関西支部 Chair、丹治 四国支部 Chair、増田 広島支部 Chair、早見 福岡支部 Secretary、高村 COC Chair、小澤 SAC Chair、浅井 AC Chair、白川 HC Chair、南 ARC Chair、大野 PC Chair、廣岡 MD Coordinator、塩見 YP Coordinator、津田 LM Coordinator、大越 EA Coordinator、井上 WIE Coordinator、橋本 Past Chair、重松 Past Secretary、前原 Past Treasurer、福田 IEEE Past President、鈴木 IEEE Industry Engagement Committee Member、杉江 IEEE Admission and Advancement (A&A) Committee Member、西原 IEEE Region 10 Past Director、尾上 IEEE Region 10 Vice-Chair of Technical Activities、矢野 2023 R10 HTAC Chair、杉山 IEEE Fellow Committee Member、野添 JO Director

事務局：加藤事務局員

幹事会社：金、木村

【議題】

1. 前回理事会議事録の確認 (審議)
2. 2023 年 Japan Council 活動報告
3. 2023 年 Japan Council 決算予想
4. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 4-1 Chapter Operations Committee
 - 4-2 Student Activities Committee
 - 4-3 Awards Committee
 - 4-4 Industry Promotion Committee
5. Ad-Hoc 委員会 2023 年活動報告、2024 年活動計画案および予算案
 - 5-1 Long Range Strategy Committee
 - 5-2 History Committee
 - 5-3 Awards and Recognition Committee
 - 5-4 Fellow Elevation Support
 - 5-5 Promotion Committee
6. Coordinator 2023 年活動報告、2024 年活動計画案および予算案
 - 6-1 Membership Development

- 6-2 Young Professionals
 - 6-3 Life Members
 - 6-4 Educational Activities
 - 6-5 Women in Engineering
 - 7. 2025/2026 役員選挙スケジュールおよび Nominating Committee 選出（審議）
 - 8. 各支部 2024 年活動計画および前回理事会以降の活動報告
 - 8-1 札幌支部
 - 8-2 仙台支部
 - 8-3 信越支部
 - 8-4 東京支部
 - 8-5 名古屋支部
 - 8-6 関西支部
 - 8-7 四国支部
 - 8-8 広島支部
 - 8-9 福岡支部
 - 9. 2024 年 Japan Council 活動計画（審議）
 - 10. 2024 年 Japan Council 予算（審議）
 - 11. その他
 - 11-1 IEEE JC からの感謝状贈呈について
 - 11-2 SYWL2024 準備状況報告
 - 11-3 IEEE Senior Member Elevation について（報告）
 - 11-4 IEEE WIE HQ におけるプロジェクトの報告
 - 11-5 シニアメンバー向けメダルの別活用について（審議）
 - 11-6 IEC の内容ご紹介
 - 11-7 Japan Office 活動のご紹介
- [参考] IEEE Japan Council メール審議記録

奥村 Secretary より、欠席 2 名の確認があり、理事会成立の宣言とともに、理事会を続行。その後宮永 JC Chair より挨拶があった。

【議事】

1. 前回理事会議事録の確認【審議】 資料（1）

奥村 Secretary より前回 JC 理事会の議事録の確認があった。
そして審議後、承認された。

2. 2023 年 Japan Council 活動報告 資料（2）

奥村 Secretary より、詳細はこの後各委員会で報告があるので、そちらで確認をお願いしたいとの報告があった。

3. 2023 年 Japan Council 決算予想

資料 (3)

樋口 Treasurer より以下の通り報告があった。

100%に近い予算執行率となった。収入については予算比 103%。Section Assessment が入金された時期の為替は 140 円 (予測は 135 円)。支出について、Section 支援費や Chapter 支援費は 11 月末の時点での数値としては予算より低い値になっているが、予定としてはほぼ 100%になる。決算予想の収支差は赤字となる。次年度への繰越金があり、これを元に次年度の予算づくりをしている。

4. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

(4-1 Chapter Operations Committee は後に)

4-2 Student Activities Committee

資料 (4-2)

小澤 SAC Chair より以下の通り報告があった。

2023 年は新たに 2 つの表彰事業を行った。また、IEEE Japan SYWL 2023 in Shinshu に学生 7 名を派遣。IEEE マンガコンテスト 2023 も開催し、優秀賞を 2024 年 1 月に公開予定である。そして R10 の HTC2023 に学生 3 名を派遣。12 月 18 日のオンラインセミナーで参加報告会を実施予定。2024 年は SBLTW を R10-SYWL 前日である 8 月 29 日に開催するので、SB 所属学生に R10 イベント参加を促したい。6 月に IEEE マンガストーリーコンテストの継続について議論し、3 月の理事会で報告する予定である。2024 年の活動計画は基本的には例年通り。

SAC の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

4-3 Awards Committee

資料 (4-3)

浅井 AC Chair より以下の通り報告があった。

2023 年は 11 月 4 日に JC AC の全体会合を開催。そこでの議論から、ノミネートされるべき候補者の洗い出しと推薦を募ること、受賞率を高めるためにアドバイスを提供することを確認した。受賞者数について、前回の報告段階ではメダルは空席だったが、その後、東工大の小山先生の受賞が決定した。全体会合で得られたことだが、今後の予定はまずはノミネーションを増やすため、候補者のリストアップをする。現在 1 名自薦、1 名は他薦の候補者があり、委員会で議論しながら支援していく。

質疑応答では、Award の推薦者が多くないことについて議論があり、浅井 AC Chair から各

Section や委員に働きかけをしていきたいとの回答があった。
AC の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

4-4 Industry Promotion Committee

資料 (4-4)

原崎 IPC Chair より以下の通り報告があった。

SYWL MAW2023 信州大学での開催支援。MAW について、全 9 Section で終了し、開催概要を Excel 表にして管理している。MAW については継続する方向で東京支部に伝え、12 月 1 日の東京支部理事会で前向きに進める結論が出た。IEEE の企業メンバー増加対策として、IEEE の President のレクチャーやイベント情報などを企業内に情報提供することによって IEEE の活動周知と会員増対策などについて議論している。本部の IEC では Industry HUB を作っており、日本にも HUB の創設について誘いがあるが、IPC としてはまだアクションしていない。MAW は 8 月 29 日～9 月 1 日に開催予定の SYWL に併設する形で開催予定。

質疑応答では、過去の開催記録に関するコメントがあり、原崎 IPC Chair から理事会への資料提出について検討するとの回答があった。

IPC の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

5. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

5-1 Long Range Strategy Committee

資料 (5-1)

原崎 LRSC Chair より以下の通り報告があった。

SYWL2024 や HTC2025 等の国際会議を東京 Section で開催することになり、奥村 Secretary が中長期計画担当となった。また、国際会議誘致のマニュアルパッケージ化は原崎、Fellow については高村 FES Chair、高等教育については宮永 Chair、と担当者を決めている。2024 年の SYWL Congress の開催日程中に MAW を入れるという方向性で東京 Section が連携を進めている。また、IEEE の Award をもらった受賞者のセレモニーである VIC サミット 2025 が東京開催される可能性がある。また、HTC2025 を東京 Section で誘致をしており、選定結果は 1 月末にでる。なお、今年度の新規会員獲得数について調べた表を共有する。R10 はゴールに対して新規会員が 116%。どの Section も昨年より多い。

質疑応答では、原崎 LRSC Chair が様々な役職を兼任しており負荷軽減や役割分担が必要ではないかというコメントがあり、奥村 Secretary より検討したいとの回答があった。

そして LRSC の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

5-2 History Committee

資料 (5-2)

白川 HC Chair より以下の通り報告があった。

HC のメインは Milestone の発掘、獲得、贈呈に掛かる支援。日本からの Milestone が 43 件

あり、欧州よりも格段に多い。特に Milestone Proposal の出し方について質問があるが、これまでの例を参考にサポートしている。

5-3 Awards and Recognition Committee

資料 (5-3)

南 ARC Chair より以下の通り報告があった。

2023 年度は JC Outstanding Volunteer Award の活動推進をメインに活動し、1 件の受賞者を決めた。JC AC の Web サイトの立ち上げを加藤事務局員にお願いしており、3 月には公開したい。受賞者は西宮康治朗先生。来年は西宮先生の表彰式を 3 月の第 1 回 JC 理事会の際にやりたい。来年も引き続きノミネーション活動を続けていきたい。具体的な活動ができれば VC や Secretary も考えたい。予算は受賞者用の記念品代として計上している。Award の Web サイトを見て頂きたい。よくできていて、受賞者の貢献についてよく書かれているので、資料をよく見て、今後の候補ノミネートに役立ててほしい。

ARC の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

(※5-4 Fellow Elevation Support は後ほど)

5-5 Promotion Committee

資料 (5-5)

大野 PC Chair より以下の通り報告があった。

学生アシスタントにお願いし、SNS の運営をしている。フォロワー数は X が 118 名、インスタグラムが 79 名。IEEE のワークショップの面白さを伝えることを柱に活動。JO が伸びると、JC が伸びるなど、相乗効果が続いている。今後は、eNotice の申請書に SNS の展開への希望という欄を設け、できれば SNS 担当宛てに一緒にメールをもらえると対応し、掲載するという方法を検討中。来年の 8 月に開催される SYWL でもプロモーションの担当として活動したい。予算は学生と続けていきたいため、同様の謝礼の支出をお願いしたい。

PC の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

6. Coordinator 2023 年活動報告、2024 年活動計画案および予算案

6-1 Membership Development

資料 (6-1)

廣岡 MD Coordinator より以下の通り報告があった。

2023 年は定例の MDC 会議を 2 回開催。特に話題となったのは、Senior 昇格者の確認方法について、どの情報源を使うのか、いかに活用するのか、など。11 月は Reference の斡旋方法について各支部の取り組みを情報共有した。東京支部 MD との共催により Senior Member 申請支援 Webinar を新たに行った。2024 年は JC 協賛国際会議におけるブース設置や OU Analytics のデータ活用等による会員獲得施策の強化に力を入れる。2024 年の活動計画としては、シニアメダル授与の円滑な管理、Web ページの継続的な更新、OU Analytics を活用し

た改革、協賛国際会議におけるブース設置を進めていきたい。

MD の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

6-2 Young Professionals

(資料 6-2)

塩見 YP Coordinator より以下の通り報告があった。

昨年広島、四国、福岡で YP が立ち上がり、信越以外は全ての Section で YP が出来上がった。今年 4 月に名古屋 YP、関西 YP の合同イベントである YP Study Lab、YP Career Lab が開催された。同時に、各 Section のメンバーを一人ずつ招へいして意見交換する YP Meet も開催。キャリア形成については博士課程キャリアについて語る会という、関西支部のイベントと、広島、四国、福岡にも講演者招待をしてもらい、イベント設立のノウハウを共有。2024 年度も共同運営も増やしていきたい。予算は基本的には今年と同じで、SYWL Congress に費用を使いたい。

YP の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

6-3 Life Members

(資料 6-3)

津田 LM Coordinator より以下の通り報告があった。

2023 年は R10 の LMAG 増設計画の 1 である福岡 LMAG の設立支援及び R10 SYWL Congress 2024 開催に向けての準備に取り組んだ。2024 年には LMAG 未設立の Section につき引き続き設立可能性の検討などを進める。12 月 8 日に開催された R10 の第 2 回 LMAG 会議に参加したが、来年の SYWL の情報提供が求められた。来年の活動計画である SYWL Congress を成功させたい。2024 年はこれに合わせて国内 LMAG 会議を行い、国内 Section の更なる LMAG 設立案件として、可能性がある四国と広島 of 合同設立を検討していきたい。予算は例年通り、加えて 2024 年の集客費用を増額計上している。

質疑応答では、LM 全員に Global LM Conference の連絡が来ているかについて質問があり、奥村 Secretary から確認するとの回答あった。

LMAG の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

4-1 Chapter Operations Committee

(資料 4-1)

高村 COC Chair より以下の通り報告があった。

2023 年の Chapter 支援費は金額的にはコロナ前の数字に戻っている。そして、一部 Section 移管が具体的に進展した。特に三宅 Secretary の尽力で東京支部 COC への作業移管が進んでいる。2024 年の活動計画については既に予算額は提出しているが、予算を計上している。あとは資料にある通りである。

COC の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

5-4 Ad-Hoc 委員会 Fellow Elevation Support (資料 5-4)

高村 FES Chair より以下の通り報告があった。

会合を 1 回、Webinar を既に 1 回開催し、12 月 18 日に 2 回目を開催予定。

2024 年は引き続き、各支部の FNC、NC、AC の方々と情報交換しながら、Fellow 増員を検討していく。2023 年の活動報告としては、8 月に Web 会議を開催し、そこで出た意見を実践している。Webinar は 12 月 5 日に第 1 回目開催。(資料添付を参照) 参加者数 27 名(半分減)だが、満足度は高かった。一般会員でなく、Senior の方々が多かったようで、具体的に Fellow の申請を考えている人が多かった印象。来年は申請予定者が 1 名。メンバーは資料にある通り。2024 年の計画も資料の通り。Webinar は参加者の満足度は高いので、継続していきたい。開催回数や内容については随時議論していく。

FES の 2024 年度の活動について審議され、承認された。

6-4 Educational Activities (資料 6-4)

大越 EA Coordinator より以下の通り報告があった。

年 3 回 Section の EA Chair とのミーティングを開催。オンラインイベントで Engineer Spotlight を実施し、宮永先生に 5 月に講演頂いた。Tokyo SIGHT のイベントを共催。第 32 回 Engineer Spotlight にて橋本先生に HTC について講演頂いた。青森むつ市の小学校のキャリア教育に電気大学の SB、理科大、東北大学の SB、EA、Tokyo SIGHT から 8 名が講師として参加。東京 Section だけでなく、各 Section の規模に応じて活動している。関西 Section は田辺先生を中心に活発に活動している。EA というと低学年向けのキャリア支援活動と思われがちだが、各 Section に合わせた活動を今後も奨励していきたい。

EA の 2024 年度の活動について審議され、承認された

6-5 Women in Engineering (資料 6-4)

井上 WIE Coordinator より以下の通り報告があった。

2023 年度は HP を作成した。マンガストーリーコンテストで WIE 賞も出している。信州大学で開催した SYWL2023 に東京信越支部 WIE2023 も共催した。Chair のメールリスト作成など各 Section の連携強化のための対策をした。2024 年の活動は会員増、各 AG 間の連携、女性研究者支援、若手支援などの従来活動に加え、R10 SYWL Congress があるので、開催協力を注力していきたい。マンガストーリーコンテストについてはまだ決まっていないようだが、WIE 賞も協力したく、予算計上をしている。各 Section の Chair や LMAG 関係者、MDC

関係者、SAC SB 関係者の方々へ、2 枚組の資料を作成したので、各支部理事会や Affinity Group の方々向けの会議資料として使い、会員増のご協力へのお願いをしたい。

WIE の 2024 年度の活動計画に対して審議され、承認された。

7. 2025/2026 役員選挙スケジュールおよび Nominating Committee 選出 (審議)

宮永 Chair より JC の Nomination Committee の役員選出に対応する Chair の選出に関し、重松 Past Secretary をお願いしたいとの提案があった。

審議の結果、JC の Nomination Committee の役員選出に対応する Chair は重松 Past Secretary をお願いすることが決定された。

重松 NC Chair より、以下の通り説明があった。

2025 年、2026 年の時期 JC 役員選出に伴い、JC Nomination Committee を発足する。

体制としては、NC Chair 以外に宮永 Chair、橋本 JC Past Chair、そして Section 代表として関西 Section の梶川 Chair をお願いする。なお Section 代表は持ち回りとする。今後のスケジュールだが、次回 3 月の第 1 回 JC 理事会で候補者指名してほしい。1 か月後の 4 月下旬に締切、第 2 回 JC 理事会で候補者リストを配布したい。もし 1 名しか候補者がいない場合には選挙を行わず、Boarding Member の承認を受けて決定する。選挙がある場合のスケジュールについては次回 JC 理事会で説明する。

8. 各支部 2024 年活動計画および前回理事会以降の活動報告

8-1 札幌支部

資料 (8-1)

小林 札幌支部 Secretary から以下の通り報告があった。

2023 年の活動報告。共催事業としては電気・情報学会北海道支部連合大会を公立函館未来大学で 4 年ぶりに対面開催。10 月 28 日に Section の 25 周年の記念講演を開催。主催事業である若手研究者年間優秀論文賞の受賞者を第 2 回理事会で決定した。支部の連合大会発表者の中から表彰者を選定する Student Paper Contest の受賞者を現在選定中。会員数増強のための新入会学生学会活動支援事業、学生講演発表支援事業を行っている。国際会議共催は IEEE の回路とシステムの Society に関する Workshop を 7 月に開催。25 周年関連で支出が発生しているが、それ以外は例年通り。2024 年の共催事業は 11 月 2 日、11 月 3 日に北海道大学で開催予定。主催事業として若手研究社や学生の表彰を行う。

8-2 仙台支部

資料 (8-2)

山田 仙台支部 Chair より以下の通り報告があった。

9 月に記念講演 (25 周年記念イベント) を東北支部連合大会の中で開催。佐藤 Past Chair による講演。11 月 28 日に記念シンポジウムを開催。盛会で、祝賀会も含めた懇親会も盛況だ

った。記念誌発行は準備中。Milestone は仙台支部としては 3 件目。垂直磁気記録が認定され、10 月に盛大に授賞式開催。参加者も多数。12 月で役員が交代（仙台 Section は他 Section から 1 年ずれている）次期役員候補も資料に記載済。来週総会で承認される予定。4 月に記念講演会開催予定、それ以外は例年どおり。収支計画も大きな変化はない。25 周年事業がない分の変化のみ。

8-3 信越支部

資料（8-3）

湯川 信越支部 Chair より以下の通り報告があった。

信越 Section では唯一の Chapter が Magnetism Society だが講演会を 12 月 12 日に開催した。会員更新開始が 10 月だが、その前に会員向けに WIE 会員増加のための案内を送付。SB も表彰者が決定。MD は、Senior 昇格者のためのセレモニーを毎年開催。来年度の活動計画では WIE メンバー、Senior Member の増加、YP 信越支部創設の話もある。今年度は MAW のために JC からの予算拠出があったが、来年度はなくなる。MAW は佐藤 Past Chair が中心で進め、イベントは 101 名、交流会には 64 名の参加があった。SYWL は前日に MAW と同会場にて開催。信越支部は YP、LMAG がいないため、JC の方々に尽力頂いた。参加者は学生が 28 名。信州大学での開催だったことで現地学生が多数参加してくれたので、今後 Student Member になってくれることを期待したい。

8-4 東京支部

資料（8-4）

奥村 東京支部 Secretary より以下の通り報告があった。（相澤東京支部 Chair 代理）

相澤 Chair の発案で、理事会はサイバーエージェントや IBM など、幹事会社以外の会社で開催した。JC と共催で Senior Membership 申請の Webinar を開催、Fellow Promotion Ad-Hoc Committee と連携して Fellow 候補者の掘起こし調査を実施した。Education については 10 件の講演会を実施。Milestone は TRON の授賞式を東大で開催。2024 年度は R10 SYWL に連携させて Industry Promotion の活動強化の一環で MAW を開催する。COC 関連で JC から東京支部に作業が移行。HTC2025、VIC2025 も東京開催予定がある。SYWL が Collaborate Leadership Beyond the Boundary ということで、産学連携も MAW の方針と一致することから、様々な多様性を活性化してイノベーションを起こすというテーマでやっていきたい。

質疑応答では、HTC2025 の東京開催について、過去の経緯から仙台支部との連携の検討についてコメントがあったが、これに対し、山田仙台支部 Chair より、前向きに検討したいとの回答があった。

8-5 名古屋支部

資料（8-5）

佐藤 名古屋支部 Chair より以下の通り報告があった。

総会を 4 年ぶりの対面開催。その他の活動として、ホームページの改修、第 2 回 JC 理事会を

名古屋で開催。多くの方に参加いただき、感謝。感想聞いた限りは喜んでいただけてよかった。8月に Senior 昇格者 7 名に授賞式開催。国際会議 7 件、学生奨励賞 7 件、若手奨励賞などの審査・授与。このところ応募も少なかったが、今年はかなり挽回できた。会員数は順調に伸び、目標数も達成でき、Section Award を頂く予定。主催行事は 3 件。東海支部連合大会、北陸支部連合大会。村瀬 Fellow に講演頂いた。歴代の Chair に講演頂き、設立当初の話に刺激を受けた。2024 年の活動で注力したいのは、学生。静岡の SB は一番古く歴史があるが、なかなか活性化しないため、支援していきたい。また新規 SB 設立も支援していく。Milestone 申請の声がけをしていく。

8-6 関西支部

資料 (8-6)

梶川 関西支部 Chair より以下の通り報告があった。

9月2日に25周年の記念イベントを開催。歴代の Chair はじめ 56 名が参加。祝賀会には 46 名の参加があった。記念講演では白川教授に関西支部の生い立ちから支部メダルの造営局での経緯と作成について講演頂いた。特徴的なところとしては若手によるパネルディスカッション。支部主催講演会 4 回開催。Committee、Affinity Group はかなり活発に活動頂いた。LMAG などはかなり活発に活動している。先日 IEEE のエジソンメダルをもらった松波先生の講演会には参加者多数で盛況。現地参加 40 名、オンライン含めて参加者が 250 名程となった。2024 年度の計画は例年通りの内容。3月8日に村田製作所の Milestone 授賞式を予定。予算案は例年通りだが、25周年イベントがないことが異なる点。

8-7 四国支部

資料 (5-7)

丹治 四国支部 Chair より以下の通り報告があった。

2023 年は四国 Section の 25 周年記念講演会を開催するとともに、IEEE Shikoku Section 所属の学生会員に対する国際会議発表者支援制度を設立した。2024 年は、R10 SYWL Congress 2024 への参画並びに学生会員及びシニア会員の増員を目指す。当初は昨年 MAW 開催をしたため、今回はスキップし、30 周年行事の検討をすることになっていたが、その後議論し、25 周年記念講演会を開催することになった。四国支部では唯一の CAS の Chapter の 20 周年の紹介もしてもらった。その他、国際会議の学生支援の制度を定めた。講演会などは昨年まではほとんどオンラインだったが、今年是对面開催した。予算の件では、対面でできていることから支出はほぼ消化できている。四国支部連合大会で企業が多数参加して頂いたことで、参加費が集まった。来年度も同様の活動をしていく。

8-8 広島支部

資料 (8-8)

増田 広島 Chair により以下の通り報告があった。

主催講演会は 9 月以降、電気・電子・情報関係学会と共催で講演会開催。支部事業として HISS を 11 月 25 日～26 日に島根大学のキャンパスで開催。参加者は登録ベースで 171 名。世界初

の学生の、学生による、社会のためのイベント。実行委員会に学生 41 名が参加。2018 年に 20 周年記念イベントも開催しているが、25 周年企画セッションを実施。25 周年記念講演の参加者は 64 名、うち島根大学の学生 11 名。地域貢献、学生支援の一環の活動。2023 年度の功労賞は大久保先生に選定、来年の総会で授賞式。2024 年の計画は例年通り。今年は 4 年ぶりに対面で開催したが、問題点も出てきたので、検討しながら HISS は広島市立大学で開催予定。

8-9 福岡支部

資料(8-9)

早見 福岡支部 Chair より以下の通り報告があった。

2023 年は 25 周年記念行事として記念講演会を開催した。初代 Chair、YP、WIE の協力も得て講演会を開催できた。また、電気情報関係学会九州支部連合大会の国際セッション 3 件を企画した。2024 年は電気情報関係学会九州支部連合大会の当番になっている(5 年に 1 度)。鹿児島大学で 9 月 26 日から 2 日間の日程で開催準備を進めている。LMAG, 九州大学 SB の設立についても代表者を九州大学名誉教授の笹田先生に依頼できることになり、承認待ちの状況で、準備を進めている。Senior Member の昇格者に 2024 年の総会で贈呈式を開催予定。学生表彰は発表奨励賞 4 件、研究奨励賞 4 件。2024 年は例年通りの活動計画。

11-3 IEEE Senior Member Elevation について(報告)

杉江 IEEE Admission and Advancement (A&A) Committee Member より以下の通り報告があった。

2023 年の Senior Member の昇格者、IEEE 全体目標、R10 の目標をそれぞれ達成。日本は昨年より 1 名減少した。MD の方々はじめメンバー増強にご協力頂きたい。資料内容について各 Section MD は閲覧可能である。9 月 7 日に JC MDC の廣岡先生、賀屋先生、西原先生、海老原先生に講演頂いた。Senior Member の申請の仕方について実際のフォーマットを見ながら、これまでの経験を基にセミナーを開催。結果は Webinar に掲載している。各 Section でも申請に必要な情報を得てほしい。今後は Q&A を作りたい。Webinar の回答者の平均年齢が比較的高かったが、若手に聞いてもらえる方法については今後検討していきたい。

9. 2024 年 Japan Council 活動計画(審議)

10. 2024 年 Japan Council 予算(審議)

樋口 Treasurer より以下の通り説明があった。

来年度の為替レートは 135 円と予想し、2023 年と同じである。予算は Section Assessment が主な拠出金となっている。支出は各部から申請のあった値を積み立てたが、支出額がかなりの額になったため、メダル代の広告費、予備費を削減したが、収支差は赤字となった。その結果、2023 年からの繰越金より、2025 年への繰越金が減る予想。

質疑応答では、現在の予算の立て方(各部からの要求の数字を積み立てて調整する方法)につ

いてコメントがあった。その後、2024年活動計画と予算について審議され、保留が1名あったが、賛成多数で承認された。

11-1 IEEE JC からの感謝状贈呈について

宮永 Chair より以下の通り提案があった。

本件は審議事項ではなく、大きな改定がなければ、次回理事会で提案したい。各 Section でイベントがあった際、JC からの感謝状がないことについて複数の先生から言及された。これまで不定期では感謝状は出されていたが、JC から定期的には出状していなかったことに共通認識があった。そこで、JC 主催の感謝状を創設し、早い段階で贈呈を検討している。次回までに私宛に意見頂きたい。対象としては複数年にわたる貢献と重要案件貢献の 2 タイプ。国内における IEEE 活動に貢献してもらった人が対象。人数目安としては、各 Section からの推薦、JC の推薦を考えている。

11-2 SYWL2024 準備状況報告

原崎実行委員長より以下の通り報告があった。

東京の開催が決定した。8月29日～9月1日に東京オリンピック記念センターにて開催予定。会場は300名の階段教室の会場を選び直した。Collaborative Leadership beyond various boundaries をテーマとした。IEEE R10 から Robotics 2024 を東京で開催してほしいとのオファーが来るなど、様々な活動が集結してきている状況。東京観光財団の助成金獲得のために海外から100名以上、国内でも150名ほどの参加者を集めたい。60名程はSBから参加してくれる。各支部には旅費+参加費など、各支部で可能な範囲で来年度の予算に組み込み参加いただきたい。今後のスケジュールとしては、プログラムを今月中に決め、1月にWebページを公開。3月にRegistrationを開始、R10 Annual Meeting で告知し、5月に決済。7月末がRegistration締切、宿泊者名簿を8月10日に提出、8月末の開催となる。

※11-3 IEEE Senior Member Elevation については、8-9の後に記載している

11-4 IEEE WIE HQ におけるプロジェクトの報告

橋本 Past Chair より以下の通り報告があった。

WIE HQ でマンガプロジェクトが採択され、今年に続き IEEE 本部の New Initiative Fund を来年も改めてもらえることになった。その際の Report を資料としている。提出の数は日本に比べてはるかに多く、ダウンロード数も伸びていることが報告されている。りこちゃんというキャラクターが世界に羽ばたきつつある。

11-5 シニアメンバー向けメダルの別活用について (審議)

橋本 Past Chair より以下の通り説明があった。

Senior Member 向けメダルが好評で、海外の方に紹介すると羨ましがられる。このメダルには Senior 昇格などの記載はないので、海外からくる VIP へのお土産、Certificate の際の副賞などでも使えるので、利用用途の拡大を提案する。配布については、各 Section からの年間配布希望数を前年度に募集し、JC で審議。途中はその都度審議をする形で検討したい。

質疑応答では、用途に応じてメダルを作ってもよいのではという議論があり、シニアメンバー向けメダルの別活用についての審議は、Study Group を作り検討することとなった。

11-6 IEC の内容ご紹介

鈴木 IEEE Industry Engagement Committee Member より IEC 活動内容について以下の通り説明があった。

IEC の活動は IEEE と関係がないテクノロジーサミットのサポートなど、幅広い。各 Section にとって実際に役に立ちそうな活動であるアンケート結果と Chat IEEE Standards を共有する。アンケートの回答者は大企業のマネージャー層、研究者で 61 歳以上の人が一番多く、実際のターゲットとはかけ離れていることがわかった。そして Chat IEEE Standards を創ろうとしている。Elevation も話題ではある。5 月に対面会議で、IPC に協力頂いている、博士取得支援のアンケートの日本での実施の可能性について話をしたところ、興味を持ってもらったので、日本の取り組みについても発信していきたい。IEEE としては Industry に注力していくことの方針は変わらない、日本の企業自体も変化していると思うので、YP などの Affinity Group よりは、Society 単位や技術系の方が勧誘しやすい。

11-7 Japan Office 活動のご紹介

野添 JO Director より以下の通り説明があった。

IEEE ボランティアの活動の強みの 1 つはアクティブ、グローバル、ダイバーシティな活動である。楽しく活動されており、これが IEEE 日本の強みと感じた。幹事会社や日本のメンバーシップのリテンション率が高いのも強み。また、製品や活動、テクニカルな国際会議が 60 回代で、国際会議開催数で TOP10 に入る。これに関わるが、VIC2025 の日本誘致活動をしている。日本開催が決まれば初めてのアジアでの開催となる。次に、Milestone についてだが、R10 の中で 47 の Milestone があるが、41 が日本からである。会員関連では、産業系の会員増加のサポートをしていきたい。Student と Graduated Student を合わせると 14% が学生メンバーでこの部分にも注力していきたい。もう 1 つ、WIE 会員が日本は全体会員の 1%。WIE の活動内容についての検討も必要だが、会員数が増えると活動も活発化する。会費のかからない学生、Life Member をそのまま入会してもらうと 23% になる。

質疑応答では、日本の WIE の会員数が少ない件について議論があり、井上 WIE Chair からアンケートなどを用いた調査を検討するとの回答があった。